

平成 28 年度 第 2 回山科区民まちづくり会議 グループ別討議まとめ

【Ⅰ 環境を守り継ぐ】

《アンケート結果や客観指標について》

- 全体的に好評価の数値が高いが、普段、美化活動などをしていても、山科のまちがきれいになってきているのを感じる。
- 環境分野については、少しでもきれいと思うと、「そう思う」と答える傾向があると考えられるため、「どちらとも言えない」の回答は、否定的な回答と捉えてもよいのではないか。
- 環境学習についての実感が低い。環境学習は子供向けというイメージがあるが、大人でも、機会があれば、参加したいと思っている区民は多くいるのではないか。区民まつりなど、人が多く集まる機会を利用してはどうか。

《同分野の現状と課題》

- 今年度の途中から、ごみの収集時間が早くなった。自然とまちがきれいになったと感じている。
- 普段美化活動をしていて感じることは、川や水路にタバコの吸い殻が多く落ちていること。山科は交通の要所であることから、区外のドライバーなどが捨てていくことも多い。環境問題の改善のためには、市民のマナーの問題も同時に考えていく必要がある。

【Ⅱ まちの魅力・観光を磨く】

《アンケート結果や客観指標について》

- 設問 5 については、「伝統産業の後継者」という問いかけは、後継者問題の実情が一般の方に分かりにくいいため、「どちらとも言えない」が多くなるのではないか。「伝統産業品を普段使いしているか？」という趣旨の質問がよいのではないか。
- 設問 6 については、区内のスーパーなどで、日頃から地元の野菜が並んでいることが、高い実感につながっているのではないか。
- 設問 9 について、実感が低いのは、各種団体へのアプローチ方法が十分伝わっておらず、活躍する意思があっても機会がない方がいるのではないか。

《同分野の現状と課題》

- 山科は観光地が点在しており、これらを公共交通機関で回りきれないことが誘客のネックとなっている。
- 山科には、古い街道が多く存在することから、街道自身を観光資源としていくという認識が必要である。
- 街道を観光資源とするには、ある程度のハード面の整備（外国語併記がある案内標記の整備、街道ごとに色分けしたレンガ敷きの道への舗装）や、「紙芝居」や「動画」を使用した街道が持つストーリー性の発信を行うことが必要である。
- 観光客に山科で消費をしていただく必要があるため、山科疏水付近、将軍塚付近、山科川沿い等で、季節限定でもお茶屋さんなどの出店があれば面白い。

【Ⅲ 交通・都市基盤を強化する】

《アンケート結果や客観指標について》

- 交通事故発生件数が減ってきているが、景気が悪く車の台数が減っているのが原因ではないか。
- 放置自転車の撤去台数が減ってきているのは、交通対策協議会が行う啓発活動などの取組の成果が出てきている結果である。
- パークアンドライドの指標は増えているが、観光客が増えると住環境が乱されることもある。住民側のメリットも考えていく必要がある。

《同分野の現状と課題》

(道路)

- 道路整備、区画整理等都市計画が中途半端で終わっている部分が多い。グランドデザイン（全体的なプラン）を見直す必要がある。
- 稲荷山トンネルが無料になったらトンネル内（約4km）で渋滞する可能性があるのではないか。

(交通環境)

- 地下鉄が整備され、バスの本数が減り、地域ごとに利便性の格差ができています。例えば、音羽のような便利なところは住環境として人気が出ています。逆に不便になっているところもあり、問題です。これから高齢者が増えていくと、より大きな課題になってくる。
- 全て山科駅に集約するのではなく、山科駅へのアクセスが不便なところのことも考え、集約点を分散するようにしてほしい。いくつかの集約点に集まるネットワークの構築を望む。
- ハードの未整備部分を、見守り活動等、コミュニティの力（ソフト）でカバーしているのが山科の現状である。

【Ⅳ-① 保健・福祉・子育て支援を充実させる（福祉・高齢・障害分野）】

《アンケート結果や客観指標について》

- 他の基本施策に比べて、無回答や「どちらとも言えない」という回答が多い。これは、問が抽象的で具体性に欠いているからではないか。例えば「若者の活動の場」という表現。「活動」とは何か、「場」とは何かという具体例を示さないと答えにくいのではないか。
- ごみ収集の職員の対応がよくなったとの声をよく聞かすが、そのような職員の対応を聞く設問を設けてもよいのではないか。

《同分野の現状と課題》

- 山科では、高齢者が行う登下校時の見守り活動などが積極的に行われており、その結果として、子どもと地域との関わりという分野の評価が高かったのではないかと考えます。
- 高齢者の見守り活動などの分野においても、担い手不足が課題です。活動の継続性を担保するために、一人の中心人物に役割を集中させるのではなく、多くの担い手を育成し、複数人で役割を分担させる必要がある。
- 子どもに関わりがあるイベントをすると、どの世代からも喜ばれる。山科で世界中の人を集めた世界大会を開催してはどうか。

【Ⅳ－② 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

《アンケート結果や客観指標について》

- 本分野（保育や高齢）の設問については、当事者や、周りにサービスの対象となる人がいないと状況がわからないのでアンケートに答えにくいのではないか。
- 高齢者福祉の評価が高めなのは、回答者に高齢者が多いからではないか。
- 区民アンケートで把握できない声を聞き取る努力が必要である。例えば、障害のある方や施設の利用者へ、「山科がよいまちになるにはどうしたい？」など、ポジティブな聞き方でアンケートやインタビューを行ってはどうか。

《同分野の現状と課題》

- 高齢者福祉は民間が経営していける制度となっているが、子育ては行政が関与しないと厳しいのではないか。
- 区民に実感持ってもらうにはどうしたらいいか。現場は、様々な施策や取組を「やってもやってもきりが無い」と感じている。例えば、児童館もほぼ全学区に設置され、保育所も数は充実してきているが評価されていない。犯罪件数の低下が治安の実感につながっていないように、実感してもらうのは難しい。実感を持ってもらうためには「見える化」が必要である。
- 「見える化」へのアイデア
 - ・ 山科区が「子育てしやすいまち、山科」を打ち出す。
 - ・ 広場や公園のある大型の子育て支援施設「チャイルドセンター」を設置し、子育て支援だけでなく、ママ向けの就労支援など「働く」について学ぶ場所とする。

【Ⅴ 地域のつながりを強める】

《アンケート結果や客観指標について》

- 警察や区民が熱心に取り組んでいるが、安心・安全の項目の実感が低く意外である。取組が区民の実感向上につながるには時間がかかるのではないか。
- なぜ“安心・安全ではない”と感じるのか。追跡調査を行い、区民に聞いてみたい。区民が求める“安心・安全”の求めるレベルが高すぎるのではないか。

《同分野の現状と課題》

(安心・安全)

- 実感向上につなげていくために、学区等で行っている様々な取組をより PR する必要がある。交番だよりの積極的な活用や、市民しんぶん区版の1面を利用した安心・安全の一大 PR（その後、区版3月号1面に掲載）を展開してはどうか。また、各学区で自主的に行っている防災や防犯の取組についても、もっと区民に PR していく必要があるのではないか。
- 実感の向上につなげていくためにも、現在行っている取組をしっかりと着実にやっていく必要がある。

(地域コミュニティ)

- 担い手不足と、担い手支援がどの学区でも課題である。大学生が新たな担い手にならないか。
- 消防団加入については、積極的な PR が効果を発揮し、加入する若い人が増えてきている。